

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 8月 25日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201195		
法人名	株式会社 ニックス		
事業所名	グループホーム桃太郎		
所在地	広島市西区小河内町1丁目8番1号		
自己評価作成日	令和4年8月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490201195-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年8月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者様に心穏やかに暮らしてもらうため、家庭に出来るだけ近い環境で、ご利用者の方々から安心して生活を送れるよう、家族の気持ちで介護する事を念頭にしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所の目標にもある、「ご利用者様のために」安心して生活を送れるよう、出来るだけ家庭に近い環境で、職員は利用者の潜在的な能力を活かし、無理のない中でサポート役として毎日の生活（暮らし方）を支援している。チームでサービスに取り組めるよう、タブレット端末（ipad）を活用して職員は利用者一人ひとりの情報を共有し、更には事務の効率化も図っている。前回の課題の一つであった、災害訓練も利用者と共に実際の災害を想定しながら行い、火災のみでなくハザードマップを活用しながら、事業所の位置や危険性を把握し可視化することで適切な対応に取り組んでいる。職員は話し合いを重ね、支援体制を見直し、業務の流れの統一化を図る取り組みを行っている。</p>

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に基づいて入居者様の尊厳を大切に安心した心地よい暮らしができるように職員は努めております。ただ、去年もでしたが今年もコロナ禍においては入居者様の外出機会はないに等しく地域密着型サービスとしての役割りは果たされていないままである。	管理者と職員は、理念の意味合いを同じ目線で共有し、研修等を通して実践に繋ぐ取り組みをしている。法人の介護事業部の目標「不適切ケア0へ・感染症予防・接遇、マナーアップ」の方針に基づき事業所の目標である”利用者様の為に”の基本を忘れず質の高いサービスを目指し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍の影響が少しずつ緩和されてきたことに伴い、入居者様と家人との面会は1週間に一度15分程度の条件付きでできるようになったが引き続き新型コロナウイルスの感染に注意すべきなので入居者の外出もできていないのが現状です。なので地域との交流は実施できていないままである。	町内会には加入しているが、地域性で日頃の繋がりが薄くなっている。職員は地域と積極的に繋がる大切さを理解しながら、コロナ禍で外出が出来ない現状では有るが、時には窓越しに住民が犬の散歩時や子供達と挨拶する等、地域とのつきあいの大切さを理解し交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々を対象とした認知症や介護の相談窓口はある。ただし、地域の方々に周知されているとは言えず、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議をコロナ禍の影響でなかなか開催が定期的にはできませんでしたが、昨年12月と今年の6月にご家族様や関係者を交えて開くことができました。会議では入居者様の活動報告やサービス内容の報告を行い、家族様にはご意見をいただきました。今後のサービスの向上に繋げられるように検討している。	コロナ禍で対面での会議は不定期に開催している。現状では事業所からの報告のみで意見交換が困難である。家族に対しては会議の報告書はその都度送付している。	議事録は家族に届けているが、他の関係者には送付が出来ていない。今後の改善課題として、様々な関係者に出席を呼び掛け、現状に基づいた会議を検討することが望まれます。また会議録に於いても、協議内容や改善課題等の情報共有が望まれます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	観音地区の地域包括とは地区の会議にリモートでの参加してはおります。ただ、市や西区の役所担当者様とは事故報告をしたことはあるが、日ごろからの連絡は取り合えていない。ただ、問題があれば相談をし、問題の解決に努めている。	市町へは、運営推進会議の議事録を提出して繋がるよう努力している。また市町（地域包括支援センター）を通じてリモートで、西区の協力医療機関の会議に出席している。また何か有れば相談するよう協力関係を築くように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束についての研修や勉強会を行っている。身体拘束をすることによって、高齢者にどのような弊害があるか理解したうえで身体拘束を行わないケアに努めており、毎月のミーティングで車イスやセンサーマットの使用が適切であるかどうか検討している。	職員は身体拘束をしないケアの大切さを、全体会議や拘束委員会等で把握している。玄関は施錠しているがフロア内は自由に行き来している。夜間のセンサー使用や、言葉による拘束や冷たい態度にならない等、職員間で気を配りながらリスクを減らすよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ミーティングなどで時間を作り、定期的に勉強会や研修を行っております。そして高齢者虐待に関する研修を通じて、職員が不適切なケアや言葉遣いが行わないよう注意を促しております。最近、職員の入れ替わりもありましたので新しい職員にも、虐待防止への取り組みに努めてもらうように今後も研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者様の生活の質の向上を目指し、研修等を通じて権利擁護についての知識と理解を深め、それらを活用できるよう利用者様と関わっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際はご利用者様やご家族様に対して十分な説明を行っております。途中で疑問に思われた事や意見等に対して誠意を持ってお答えし対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様からのご意見は日々の生活の中で、また、家族様からのご意見は運営推進会議や日頃の面会などで知る機会があります。そういった意見等はカンファレンスを通じて職員間で共有、議論し入居者様にとってプラスなら可能な限り要望に応じられるように努めている。	来所時に意見を求める機会は設けているが、コロナ禍での面会はルールを設け、希望する家族には1週間に15分、ガラス越しで制限はあるが、出来る限り家族の要望を反映するよう努めている。また予約なしで突然訪問された家族等にも、臨機応変に対応出来るよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々の朝礼でも検討することもありますし、毎月の全体ミーティングや各階のユニットミーティングで職員の意見や提案を聞く機会を設けております。入居者様やご家族様の思いなども考慮して解決や実行に向けての話し合いを行っている。	職員からの意見は全体及びユニット会議の場など、様々な場面でしている。例えば職員からの要望で、2ユニットのケア方法が違い、互いに業務協力に入る時、戸惑いがあり話し合いを重ね、その結果必要に応じて、業務改善等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意見や思いを言いやすい環境に努めております。問題が起きた場合等にはできるだけ早急に対応できるように努めております。また直属の上司に言えないことでも、直接に社長へ思いが届けるように目安箱を設置しており、職場環境の向上への対応を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	それぞれの能力に合わせた研修への参加や事業所での勉強会を適時行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流する機会は地域包括主催の勉強会に参加するなどして交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	グループホームでの生活に一日でも早く慣れていただけるよう、積極的に声掛けを行い、お互いの関係づくりを築きながら馴染みの関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様からの要望にはしっかり耳を傾け、できる限りニーズにお応えできるように努めております。職員間でも問題や情報を共有し、より良いケアができるように日頃から検討をして、入居者様にとっての最善のケアができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前のアセスメントを基にご利用者様のニーズを見極めるように努めております。新たに必要対応や支援が必要ならばそれらが行えるようにできるだけ努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立支援という介護の基本を念頭に、入居者様が出来る事は可能な限りご自身でやっていただけるように心掛けております。職員は入居者様ができないところを手伝う形で生活支援していくように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍においてはご家族へは施設内への立ち入りをしばらくお断りしていましたが面会をすることができるよう緩和しています。引き続き家族への連絡は密に行っており、入居者様の支援にご家族のご協力を得ながら努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様と情報を共有しながら馴染みの人からの支援をお願いし、馴染みの場所との関係が途切れることがないように、出来る範囲で協力をいただけるように努めている。	コロナ禍で、馴染みの場所に出掛ける事が困難な現状で、出来る限り馴染みの人（家族や知人等）との繋がりを大切に支援している。例えば訪問美容で1,5ヵ月に1回、ヘアカットや染めに来訪して貰い、職員は途切れない関係の継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の相性も考慮した上で席の位置を考えている。また、アクティビティ等で誰か一人を孤立しないようにも配慮をしており、それぞれがグループホームでの生活を楽しんでいただけるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後の入院などのご相談や支援は主治医などのご協力を得たりして必要に応じてフォローができるように努めております。できるかぎり本人様やそのご家族の経過をフォローをして、相談や必要な支援に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自己選択、自己決定という、ご本人様の意思を尊重し、職員本位の支援を行わないよう配慮しております。ご本人様のレベルが低下した場合であれば、その方の志向を考慮した選択を行っている。その人らしくここでの生活を楽しんで頂けるように努めている。	思いや暮らし方が出来る限り実現出来る様、例えば食事形態の変更や、お酒の希望がある場合は、行事食と合わせノンアルコールビールを提供している。利用者の希望の把握が困難な場合、職員は日々の生活の中で思いを汲み取り、希望に応えられるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様のこれまでの生活歴をご家族様からしっかり聞き出し支援の向上に努めています。また、入居者様自身からもお話をすることでこれまでの生活歴の把握を行い、サービスの向上に活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	朝礼や夕方の申し送り、職員間で共有しているノートによる情報の伝達、データベースによる記録から入居者様の情報の共有を行い、一人一人の状況が常に把握が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様の現状を把握し、家族、ケアマネジャー、職員、他職種との連携も取りながら意見交換を通して、その方にとって必要な支援を見つけて、その方のための介護計画を作成している。計画の見直しについては、変化があれば変更を行い、反映をさせている。</p>	<p>計画の作成はケアマネジャーが担当者から聞き取り、モニタリングを行い評価し計画を立てている。計画の見直しを行う場合は、職員が家族や看護師、医師等から必要な情報を収集し、ケアマネジャーに報告し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>普段と様子が違うと感ずることがあれば、記録に残すように努めている。そのため生活行動記録には、些細なことも情報を入力して記録に残している。記録は実践や介護計画の見直しに反映させている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>他職員や他職種との連携を取り、入居者様に必要なサービスを提供しているように取り組みをしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>支援学級の職場体験や、ボランティアの方を通じて地域の方々とのつながりをしてきたこともあり、これからも大切にしていきたい。ただ、コロナ禍の影響もあって思うように取り組めれていない状況が続いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>契約の同意を得て、内科・訪問歯科・心療内科・皮膚科は協力医に往診をしてもらっている。そして何か異常があれば常に相談・報告を行っている。医療についての記録は医療ノートを作成して連携を取っている。その他の専門科の受診はご家族様が対応してもらっている。そして必ず、協力医への情報提供は行っている。</p>	<p>協力医は内科・呼吸器科・皮膚科等を始め他科への受診もある。利用前より馴染みのあるかかりつけ医に通院する人は家族の協力で通院している。協力医は週1回の往診で2-4時間の対応がある。協力歯科医・訪問看護も週1回の訪問があり、薬局とも協力し適切な支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週月曜日に定期で訪問看護師が訪問に来ている。その際、利用者様の些細な変化も訪問看護師に報告・相談行うようにしている。何か変化があれば、適切な指示をもらっている。特変があれば主治医に報告を行ってもらい指示を受け対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医との連携を図りながらサマリを持参し医療機関への情報提供を行っている。退院時はカンファレンスを行いADLの変化や食事形態の変化などの情報共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の指針」を提示し、内容を説明したうえで家族様より同意を必ず得ている。また、特別な場合があればご家族とのカンファレンスも行い、今後のことや終末期のことを検討することも行っている。	利用時に家族等に説明を行っている。同事業所は看取りの経験があり、重度化した場合改めて家族と話し合いを行い、同意書を交わし方針を共有し支援する体制がある。職員はカンファレンス（その時どうするかを決めておく事）を通して、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成し目の付く所へ掲示してある。事前に連絡方法など対応に対する注意を行い周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ハザードマップや年2回行っている防火・防災訓練等で避難経路を再確認している。地域との協力体制は取れているとは言えない。	年2回の避難訓練は、昼夜間帯を設定し全員の利用者と共に、言葉をかけながら行っている。更にハザードマップで事業所が置かれている位置や、危険性などを確認し有事に備えている。備蓄も平素よりストックしながら確保している。	

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様への尊敬の念を持ち、その人らしい生活が送ってもらえるように努めている。言葉遣いにも気を付けるように努めている。ケアに対してもその人のプライバシーに十分に配慮を行うように努めている。	職員は普段から接遇のチェックを行い、繰り返す事により改善点が見えて来ている。例えば大声でトイレ誘導や、不適切な言葉使い等職員同士が注意し、人格を損なわない対応を心掛けている。更にはケース記録も尊厳に配慮し直接的な言葉は書かかないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食べたい物、したい事を出来るだけ聞き出し、本人様に「したい、したくない」「好き、嫌い」に配慮した支援を行っている。できる限りご本人様の思いに沿えるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来るだけ一人ひとりのペースを大切にしよう心掛け、入居者様の希望に沿った過ごし方ができるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧品や髭剃り、お気に入りの服の着用、本人様の身だしなみやおしゃれが出来るように毎日気にかけて支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	普段の食事は配食された食事を提供しているため機会は多くないが、行事食の時等にそれぞれの出来る事、例えばカット・味付け・盛り付け等、できることは一緒に行っていたくようにしている。日常では、お盆拭きや食器拭き、テーブル拭き等を行ってもらっている。	同法人施設の配食を利用し、水曜日は手作りメニューの日を設定しラーメンやうどん等提供している。テーブルやイスの配置等も、個々に合った工夫がある。定期的な料理レクや行事食で、お寿司・お好み焼きを準備して楽しく食事が出来るよう工夫しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士の指示のもと、配食センターより食事が届き、食事を提供している。毎食の食事量や水分量はしっかり記録管理を行っている。食事の仕方が分からない方には声掛けにて食事することを促し、自力で摂取するのが難しい方には、一部介助にて食事を摂って頂くよう支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>歯科医の指導のもと口腔ケアを適切に行っており、必要であれば磨き残しがないように支援することを行っている。できるだけ利用者様の残存機能を生かしながらできないところだけ手伝うようにケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中はリハパンから布パンに更新したり、排泄パターンを考慮した声掛けを行い、排泄の失敗を減らすように努めている。出来る限り職員の見守りにて自力にて排泄が行えるよう支援している。</p>	<p>利用者の排泄パターンを把握し評価を行い、残存機能を引き出せるよう支援に努めている。また利用者の排便も、廊下を歩行したり乳酸菌やホットミルクを摂取して貰うなど、また腹部のマッサージも行い自然な排便が出来るよう、自立に向けた支援をチームで行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>ビフィズス菌飲料の摂取や水分摂取の促し、便秘ぎみなら牛乳を提供するなどの支援を行っている。排便がでない日が続けば、主治医の指示のもと屯薬や坐薬による排便コントロールを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>曜日や時間帯などに応じる事が出来ないように思うが、本人様が着たい洋服や準備など、職員と一緒にしようとしている。また、バスソルトをご家族様が手作りされている方もおり、それを使用し、楽しんでいただいている。</p>	<p>入浴の頻度は利用者の希望に合わせ、基本的には週2回の入浴を心掛けている。浴室の温度管理に於いても暖かい環境を保ち、夏場は利用者の希望でシャワー浴を行っている。1階は機械浴が利用出来、個々に応じた入浴を支援している。また皮膚の問題もあり、個々に応じた入浴剤を使用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	居室の明るさや、室温、ベッド の高さ、臭い等の住環境に注意 を払いながら、安心して休ん でいただけるよう支援している。 また、夜間のトイレに行か れる際は必ず誘導、見守りが できる体制を整えている。巡 回も定期的に行い、何かあ った時の対応ができるように している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支 援と症状の変化の確認に努め ている。	薬剤師指導のもと服薬の支 援を行っている。時には利用 者様の症状に合わせた服薬 支援を行う場合もあり、常 日頃から入居者様の状態観 察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとり の生活歴や力を活かした役割 、嗜好品、楽しみごと、気 分転換等の支援をしている。	歌や体操、おやつ作り、創作 などのレク活動、日々のお手 伝いなどで入居者様に役割 を担って頂き、ここでの生 活を楽しく過ごしていただ けるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また 、普段は行けないような場 所でも、本人の希望を把握 し、家族や地域の人々と協 力しながら出かけられるよ うに支援している。	コロナ禍の影響で病院受診 を除く外出はほとんど出来 ていません。年末年始にご 自宅でお過ごしされた方が おられますが、新型コロナ ウイルスの感染拡大が見ら れるため今のところは計画 できない状況が続いている。	出掛ける事が困難な状況 下で、職員は利用者が感じ る外出を考え、天気の良い 日は広いベランダで外の風 を楽しんで貰っている。ま た職員は利用者への外の 風を楽しんで貰うため、天 気の良い日は畑に出て外出 気分を味わってもらって いる。	
50		○お金の所持や使うことの 支援 職員は、本人がお金を持つ ことの大切さを理解してい り、一人ひとりの希望や力 に応じて、お金の所持し たり使えるように支援して いる。	以前居られた方が買い物 が好きで小銭を携えてもら っていたことがありますが 、現状の入居者様がお金 を使うことへの支援は行 っていません。外出する 機会があり、支援ができ る状況が増えれば実施し ていけたらと考えている。		

自己評価	外部評価	項目(1 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日中であれば、ご家族様との電話を希望されれば電話が出来るよう支援をしている。ご家族様との手紙のやり取りも行っておられる方も居られるのでお部屋に飾っていつでも見れるようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた飾りつけを行い、季節を感じていただけるように工夫している。そして、壁には行事の写真などの展示を行っている。又、トイレ場所やご自身の居室が分かりやすくなるよう工夫に努め、利用者様が不安にならないよう支援している。	居心地よいリビングの壁には、職員と利用者が作った季節の作品が飾っている。リビングと居室に繋がっている廊下は、散歩道として時には仲の良い利用者が、配置されたソファで喋りをする事もある。職員は利用者が居心地よく過ごせるよう気配りしながら支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に椅子を置いたりして、歩行訓練時休めるようにしている。また、リビング内にはテレビを2カ所設置して、フロア内のどこからでもテレビが見えるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が使用されていた馴染みの物(家具・置物・写真等)使用して頂いている。居室の掃除は基本、毎日行うようにして、シーツ交換も定期的に行って居心地よく過ごしてもらえるように努めている。	居室入口には利用者の顔写真や工夫された名札がある。室内はエアコン、ベットが設置され、家具は使い慣れたものを持参している。利用者の中には小さな応接セットを配置したり、家族の写真飾る利用者もいる。職員は心地よく過ごせるよう配慮しながら支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共同トイレの場所やリビング等が分かりやすいように大きく案内が貼ってあり、居室の入り口にはご自身の部屋だと確認できるよう顔写真を貼ったりしている。		

V アウトカム項目(1 ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	経営理念の「利用者様の満足」に基づき職員一同が共有し、日々の業務の中で実践につなげているがコロナの為難、出来ていない事も多々ある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年につき、コロナの影響で、地域の方々や、他事業所との交流は出来ていない。家族様との面会は制限があるが週に1回のペースで15分間行うことができている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々に向けた介護相談窓口はあるが地域の方々に周知されているとは言えないが、昨年末に、近隣住民の方が1名ほど相談に来られた。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	6月に運営推進会議を開催して、入居者様の活動報告を行い、行事の写真などをまとめご家族様に配布し、地域包括、訪問看護から意見を頂き頂いたご意見を参考にサービス向上に活かすよう検討している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	観音地区の地域包括とは地区の会議にリモートで参加しているが、日ごろからの連絡は取り合っていない。問題があれば相談をし、問題の解決に努める。		

自己評価	外部評価	項目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に身体拘束の研修や、施設内勉強会を行い職員一同研修ノートの提出をし、身体拘束を行わないようケアに努めている。毎月の会議でも現在使用中のセンサーマット等の使用について、適切なものか検討を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的に行われる勉強会の担当を決めて、資料作成し、発表をしてもらい、意見交換を行っている。また、オンラインでの外部研修を通じて職員が不適切なケアを行わないよう虐待防止に努めている。入浴の際に必ず、全身観察を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社内研修等で権利擁護の知識と理解を深めそれらを活用出来るよう入居者様と関わっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際はご利用者様やご家族様に対して十分な説明を行っている。途中で疑問に思われたことや質問に対して誠意をもってお答えしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様や、利用者様からの意見や要望はカンファレンスで話し合い、可能な限り要望に応えられる様対応している		

自己評価	外部評価	項目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の面談の機会を設けている。毎月の会議でも個々に意見は無いかの確認も行って意見が出れば全体会議で皆で検討し反映させている。また、事業主に直接届く意見箱を設置している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半年に2回個人評価シートを使用し、目標設定・目標達成度の評価を行っている。また、意見を言いやすい環境作りに努め、問題が起きた場合は、早急に対応するように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個々のスキルに応じた社内研修に参加し、実技に対しては現場で指導している。事業所研修にも参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同業者との交流する機会は地域包括主催の勉強会に参加するなどして交流を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前から、事前のアセスメントを基に職員間で情報共有し、積極的に声掛けをし、他入居者様との関わりを持てるよう職員が間に入り一日でも早くグループホームでの生活に慣れていただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時に家族様のニーズと本人様のニーズ伺い、職員間で情報共有し可能な限り応じれる様対応している。入居者様に担当職員をつけ、日々の様子等を伝えて信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	アセスメントと入居者様と家族様のニーズをしっかり把握し、必要に応じた、対応をしっかりするよう努める。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	自立支援を念頭に、出来る事は、可能な限りやって頂きながら、負担にならないように心掛け、良い関係を築けるよう生活支援を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時や、家族様に連絡時などに最近の状況などを報告しその際、家族様の思いを伺い、気持ちに寄り添うよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様と情報を共有しながら、馴染みの人や場所への支援をお願いし出来る範囲で協力をしている。昨年同様にコロナの影響もあり、施設外での支援は控えて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様が孤立しないように定期的に席替えを行い気の合う方との席の配慮をし、職員が間に入り孤立すること無く、皆さんと良好な関係が築けるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された家族様より相談もある。できる範囲内での相談にお答え対応は行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	自己選択。自己決定、ご本人様の意思を尊重し、一人一人の思いに寄り添いながら、その人らしく生活できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントや、家族様からの生活歴などの情報を基に把握に努めている。また、日々の生活の中でも本人様からの話なども参考にし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎朝・晩の申し送りや職員共用ノート・日中生活記録（iPad）などの活用で職員一人一人が入居者様その日その日の状況が把握できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員や、本人様や、家族様、他職種の意見等と入居者様の現状をもとに、ケアマネジャー中心に情報共有し、その人らしい介護計画の作成を行う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	体調変化や、感情変化等、変わったこと、些細な事まで、全て、生活記録に残し実践や介護計画の見直しに反映されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	他職種や他の職員との連携を取り、個々のニーズに対応できるよう様々な方面からアプローチを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援学級の職場体験やボランティアを通じて地域の方とのつながりを大事にしているが、昨年同様コロナの影響で難しくなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科・心療内科・訪問歯科・皮膚科・循環器の往診してもらっている。主治医には24時間連絡取れる体制が整っており、常に相談・報告を行っている。その他は家族様に対応をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回定期的に訪問看護が来所し、入居者様全員の健康状態の報告を行い、助言、指示を受けている。医師の判断が必要なことに対しては、看護師が直接主治医と連絡を取り適切な対応の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はサマリを持参し情報提供を行い。定期的に連絡を入れ入居者様の状態確認を行い、その都度職員一同情報共有している。退院時は事前に情報を聴取しカンファレンスを行いADLの変化や、食事形態の変更等の情報共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の指針」を提示ししっかり内容説明した後、家族に質問等ないか伺い、同意を得ている。また、状態の変化時には、家族様と今後の事を検討する取り組みを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを作成して、事前に連絡方法など、対応に対する注意を行い周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	ハザードマップや防火・防災訓練等で避難経路を再確認している。		

自己評価	外部評価	項目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者様の人格を尊重し、声掛け等にも注意をしている。又、接遇研修などを通して尊厳に配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	食べたいもの、したい事を聞き出し、自己決定できるような声かけを行い、思いに沿った援助が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務優先になる事も時にはあるが、お一人お一人のペースを大切に出来る限り希望に添えるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧品や、髭剃り、洋服選び等、思表示できる方に関してはご本人にしてもらおう。そうでない方に対しては職員が行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	行事食や、手作りメニューの時など、盛り付けや、食材を刻んでもらったり、調理が難しい方などには、テーブル拭きやお盆ふき等と役割分担しそれぞれが出来る事を手伝って頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養士の指示のもと、食事を提供している個々の食事形態に応じて対応している。一日の必要な水分量は摂取できるよう提供し記録管理している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行っている。歯みがきの後は磨き残しがないか、確認し、難しい方に対しては職員が仕上げ磨きをしている。訪問歯科のサービスも受けて相談できる状況にある。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握して個別に対応している。また、夜間帯はリハパン使用される方も起床時には、布パンツに履き替えて定期的なトイレ誘導を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄記録をもとに、腹部マッサージや乳製品などを提供している。自然排便、便秘予防に取り組んでいるが主治医の指示のもと、配薬による排便コントロールも行っている</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>体調不良等で曜日を変更したり時間を変更しての対応もしている。入浴表のもと、週2回の入浴を実施。体調不良等の日は柔軟に対応しているが、入浴時間や曜日などは希望に沿えていない。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>安心して休んで頂けるよう、居 室の明るさ温度調整など環境整 備に努めている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>医療ノートを活用して薬の変更 についても必ず申し送りなど職 員間で共有している、副作用に ついては各自で把握しているが 、皆が把握できているわけは ない</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>日々の生活の中での役割として 洗濯干しや、たたみ、お盆拭き など出来る事を役割として提供 している。楽しみとしてはレク 活動や、歌、体操を毎日行う。 気分転換を兼ねて、時には、 デリバリーを頼んでいる。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。</p>	<p>コロナの影響で外出や、散歩は 行えていない。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>ご自分で金銭管理をされる方は おりませんが施設で預かり金を 預かっており、ジュースを買っ たりする事はある。通信販売の 本を見て、服を購入される方も 以前はおられました。また、外 食に行くこともあったがコロナ の影響で現在は出来ていない。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2 ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯電話を持参されている方は自由に使用されている。家族様に連絡をしたい方については、その都度、施設の携帯を使用して連絡できるよう援助しています。手紙も希望される方に対しては支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	生活感や季節感が出せるよう廊下に季節に応じた展示物やレクで作った作品、行事の写真などを展示している。又、食堂やトイレが分からなくならないような工夫もしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の日の当たる場所に椅子を置き、日光浴したり、外の風景が観察できるようにしている。リビングのテレビは2カ所に設置しどこからでもテレビが見れるように工夫されている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に使い慣れたタンスや馴染みの有る物を持ってきて頂き安心して暮らしてもらっている。居室の掃除・換気は毎日行い、シーツ交換も定期的に行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	完全バリアフリーで廊下や、部屋、浴室などに手すりが備わっている。食堂なども床に大きなシールの案内が貼ってあり、分かりやすくなっている。		

V アウトカム項目(2 ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム桃太郎

作成日 令和 4年 10月 11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域との交流が出来ていない為地域資源の活用が不十分である	地域住民や社会福祉協議会との交流に努める	地域包括や社会福祉協議会との繋がりを構築する	1年
2	35	近隣住民との防災訓練協力体制が築けていない	近隣住民と防災・水害訓練を行えるよう努める	地域住民との交流もかねて防火訓練と水害訓練への参加を地域の長に協力をお願いする	1年
3	4	コロナ禍もあり、運営推進会議を活用した取り組みが出来ていない	運営推進会議を再開し意見やサービス向上を目指す	運営推進会議を再開する。参加されない方々にも、意見をもらい、開催後の報告も行う	1年
4	5	市・区との連携を築けていない	市・区の担当者と日頃から連絡が取れる関係を築く	市・区の窓口担当に会いに行き協力体制が築けるようにする	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。